

特集 01

神戸ポートミュージアムで アクアリウム×アートの新感覚を体験



2021年秋に開業し、新たな神戸ウォーターフロントエリアのランドマークとなった、神戸ポートミュージアム。アクアリウム、フードホール、ブライダルデスクで構成された文化複合施設です。インスタグラムをはじめとするSNSで拡散され、神戸唯一の「映えスポット」として話題になったátoa(アトア)。オープンから1年半が経った現在でも、たくさんの写真が投稿され続けています。今号では、そんなátoaを特集！皆さまの夏休みのおでかけの参考になればうれしいです。

薄暗い洞窟の中に入っていくかのような演出が施されたátoaのエントランス。足を一步踏み込めば、幻想的な空間が広がります。

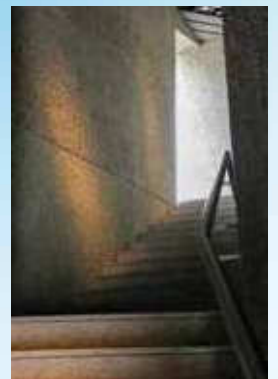
átoaという名前の由来は「アクアリウム(水族館)」と「アート」の融合。舞台美術やデジタルアートがふんだんに使用された館内は見どころも盛りだくさんです。光や香りなど「五感で感じる」演出が随所に盛り込まれ、幻想的な世界に入り込んだような感覚を味わうことができます。

館内は8つのテーマに分かれており、それぞれのテーマを表現した様々なデザインの水槽を展示。水槽には、魚類を中心に無脊椎動物、両生類、爬虫類、鳥類、哺乳類など多様な生きものたちが暮らしています。通常の水族館では、ひとつのエリアに同じ地域の生きものを展示することが一般的ですが、átoaではひとつのゾーンに様々な地域の生きものが暮らしており、独創的な雰囲気が漂います。

また館内には、額装された水槽や、手で触れて動かすことのできるオブジェ、その他数多くのアートが点在しています。アートを探しながら巡る新感覚の水族館。みなさんも是非体験してみてください。



神戸ポートミュージアム外観
「隆起する大地と浸食する水により生まれた造形」を表現したデザイン。近代的な外観が目を引きまます。



átoaへと続く外階段。洞窟の中へ入っていくようです。



出迎えてくれたのはATO A Chatterのアドレス。インフォメーションの案内係です。



インフォメーションでは魚朱印を販売。átoaにいる生きもののイラスト付きです。

はじまりの洞窟

CAVE

ここがátoaの出発地点。
光る魚群とともに、館内へ入っていきます。



ここにも！アート発見

凶暴な魚として知られるピラニア
(実は臆病な性格)。よく見ると体
に金色の鱗がついています。これ
も立派なアート！

生命のゆらぎ

MARINE NOTE

部屋に入った瞬間に感じたいい香り。海をイメージした香り
なのだから。ゆらゆら揺れる青色の光と透明の大きな水槽
でまるで海の中にいるようです。



透き通った水槽なので、魚たちが泳ぐ
様子をじっくり観察できます。



精霊の森

ELEMENTS

海から森へ一気に移動。
おとぎ話の世界をイメージしたゾーンです。



水槽の上にあるのは生きた植物。今も成長を続けてい
ます。



健康管理と学術調査の
データ収集に協力中の
アルダブラゾウガメ。



探求の室

FOYER

知的好奇心がくすぐられるゾーン。
たくさんの仕掛けが隠されています。



太陽の光を取り入れた最大水深7mのオーバークラウド水槽。



壁画「蛸富士」。手前の水槽と見ると、
銭湯のようです。近くで見ると細かい模様は迷路
になっています。



生きもののクイズや謎解きなど楽し
めるショーを不定期で開催！ ATOA
Chatter のアンモーン長老に会えら
ればぜひ話しかけてみて！

和と灯の間 MIYABI

鮮やかで優雅な金魚や錦鯉に日本の美学を感じられるゾーン。



壁には、四季折々のイメージが投影されます。



昔々は、ひらひらと泳ぐ金魚を上から眺めて楽しんだそう。こちらのゾーンでは、上から眺められる展示になっています。

探求の回廊 GALLERY

五感で感じる体験。
生きものたちへの好奇心が高まります。



様々な動物のおしりの匂いがかけるコーナー。



オブジェを動かすと、
ペンギンの影絵が出現！



メリケンパークを臨む。

奇跡の惑星 PLANETS

丸みを帯びた水槽や、どこことなく宇宙を思わせる生きものたち。ここでしか体験できない神秘的な異空間です。



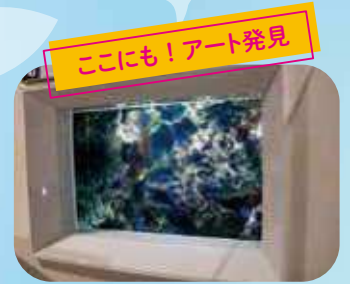
日本最大。直径3mもある球体の水槽。
光と音を駆使したショーも行われます。



赤いエビはどこかの
星の宇宙人のよう。



こちらの魚も、体の
色がどこことなく宇宙
を感じさせます。



水槽が額縁に入ったアート作品に。

空辺の庭 SKYSHORE

神戸の空が見える庭で、生きものたちが暮らしています。



átoaの飼育員さんは、
ペンギンを顔で判別し
ているとのこと。難し
そうです。



コツメカワウソが昼寝をしているハンモックは、
神戸市消防局から提供された使えなくなったホース
でできています。なんとátoaの職員さんの手作り！



お土産とグルメに立ち寄り

同じ建物の1階には、átoaのミュージアムショップと、フードホール「TOOTH TOOTH MART FOOD HALL&NIGT FES」があり、átoaに入館しなくても立ち寄ることができます。



バーカウンターを見上げるとここにも水槽。
MARINE NOTE と繋がっています。



テラス席で
海風を感じながら
いただくのも楽しい



GALLERYに展示中の 壁画アート「BLUE CARBON」は 特設サイトにも注目！

地球温暖化対策の新しい選択肢として注目され、生物多様性保全につながると期待されているブルーカーボンをご存知ですか？ átoaでは、ブルーカーボンについて理解を深めていただくための壁画アートをさらに詳しく、わかりやすく解説した特設サイトを今年5月にリニューアルしました。



夏休み期間中イベント

スノードーム ワークショップ

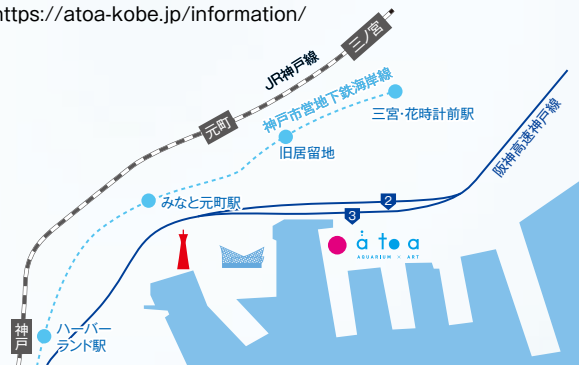


すきなパーツを選んで オリジナル作品づくりを体験

開催場所：2階 MARINE NOTE 生命のゆらぎ
時 間：10:30～16:00(最終受付15:30)
※作品は制作後すぐにお持ち帰りいただけます。所用時間は20～30分程度です。
価 格：2,800円(税込)～※パーツによって値段が変わります。
開催期間：2023年7月15日(土)～8月末までの土日とお盆に開催

AQUARIUM×ART átoa(アトア)

〒650-0041 兵庫県神戸市中央区新港町7番2号
電話：078-771-9393
営業時間：10:00～20:00 / 年中無休
料金：通常時 大人(中学生以上) 2,400円 子ども(小学生) 1,400円
幼児(3歳以上) 800円 幼児(3歳未満) 無料<価格変動制ですので、事前にご確認ください>
詳細はHPをご覧ください。
<https://atoa-kobe.jp/information/>



大阪湾海上交通センター

愛称: マリントクトKOBE



令和5年3月12日 淡路島から神戸へ 移転・機能強化

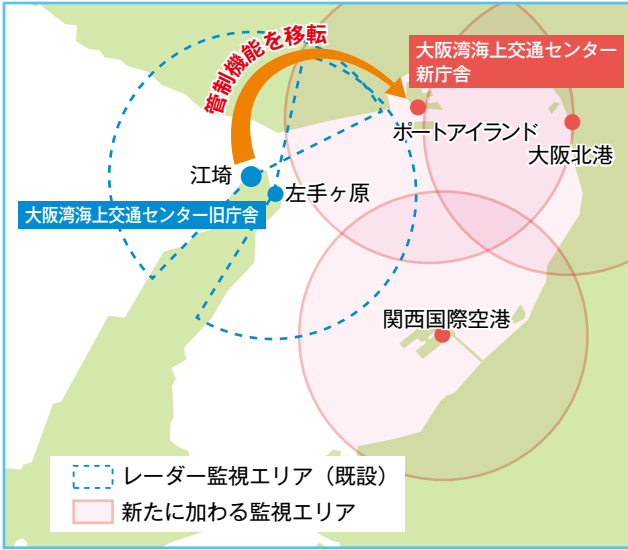
神戸市のポートアイランド南西角で一際存在感を放つ高さ43.9メートル（3階建+レーダー塔）の海上保安庁の大型施設、その名も「大阪湾海上交通センター」。

同センターはこれまで、明石海峡をのぞむ淡路島の北端に所在し、明石海峡をはじめとする広大な海域において船舶交通に関する情報を収集・把握し、船舶の安全運航に必要な情報提供等を行ってきましたが、関西国際空港連絡橋への船舶の衝突事故を踏まえ、管区本部（神戸市所在）との連携海域の監視・情報提供体制の強化を図るため、令和5年3月12日にここ神戸の地に移転してきました。

本号では、大阪湾海上交通センターを余すことなくご紹介します。



移転の経緯・背景



五管区海上保安本部では、平成30年9月台風21号の影響により、関西国際空港周辺海域に錨泊していた船舶が走錨*し、同空港連絡橋に衝突するなど、近年、大型の台風をはじめとした異常気象の頻発・激甚化に伴い、船舶交通の安全や臨海部における施設の機能が阻害され、人流・物流に甚大な影響を及ぼすような事故が発生していることを受け、同空港周辺海域を含む大阪湾北部海域において、荒天時の走錨等に起因する事故の再発防止のほか、海域の監視・情報提供体制を強化するなど、安全対策の強化に取り組んできました。

大阪湾海上交通センターの移転・機能強化もこの一環であり、レーダーや高機能カメラを新たに整備するなど、大阪湾北部海域の海上交通の安全を支える体制を整えました。

(※船舶が錨をおろしたまま強い風や波等の影響で流されてしまうこと)

新庁舎の紹介

新しい庁舎は3階建てで延べ床面積は約1,800平方メートル、運用管制室は最上階にあり、約360平方メートルのワンフロアで、壁面には縦1.4メートル×横3.6メートルの多画面装置、更にその左右にはそれぞれ10面のモニターを整備しました。

これにより全ての管制卓のモニターをこの壁面モニターに映し出すことができ、緊急時の状況を即時共有することができるようになりました。



愛称は「マリンタクトKOBÉ」

センターの移転に先立ち、広く国民の皆様には海上保安庁の業務を知って頂くとともに、地元になく愛される施設を目指すという趣旨で、新庁舎の愛称を募集したところ、数多くの御応募の中から地元に着目した愛称選考委員会により最終的に「マリンタクトKOBÉ」という愛称が決定しました。

この愛称には、海上交通センターが船を正しく導く様子をオーケストラで指揮者がタクトを振る姿になぞらえ、「航路のハーモニー」を奏で続けることを願う作者の想いが込められているそうです。

「マリンタクトKOBÉ」という愛称に込められた想いに恥じぬよう、これからも所長を筆頭に職員が一丸となって正しくタクトを振り、海上交通の安全確保に取り組んでいくとの意気込みを語ってくれました。



愛称選考委員会

建築に携わった方や海事関係者、地元の中学校・高校の生徒会長さんにも参加頂き、みなとまち神戸にふさわしい愛称が誕生しました。

海上交通センターの役割



海上交通センターは、特に船舶の交通量が多い7つの海域（東京湾、伊勢湾、名古屋港、大阪湾、備讃瀬戸、来島海峡、関門海峡）に設置されています。

船舶の安全航行に必要な情報の提供と管制業務を一元的に行うことで、海上交通の安全を図っています。

大阪湾海上交通センターでは、日本トップクラスの交通量を誇る明石海峡航路をはじめ、海上輸送の要衝である大阪湾等の安全を確保しています。

POINT

日本の貿易量の99.5%が海上輸送されています。海上交通の安全を守り、日本の生命線ともいえる海上輸送の安全を確保するのが、海上交通センターの役割です。

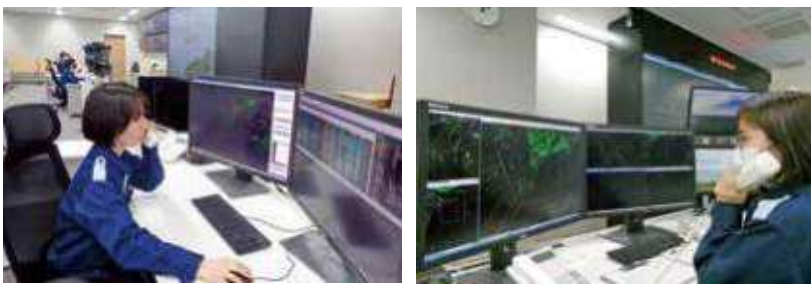
海上交通センターの主な業務



POINT

平成22年7月1日に施行された「港則法及び海上交通安全法の一部を改正する法律」では、航路等のふくそう海域における船舶交通の安全性の一層の向上を図るため、海上交通センターによる船舶に対する情報提供や勧告等の措置が制度化され、これにより、海上交通センターが果たすべき役割は益々重要なものとなりました。

運用管制官の仕事



運用管制官は、海上交通センターで勤務し、船舶が安全に航行できるよう、レーダー等により船舶の動静を把握し、無線による情報提供や法令に基づいた航行管制を行います。

必要により、湾内に配備している巡視船艇に無線で連絡し、現場に急行させるなど陸と船で連携して業務にあたっています。

船舶海難を未然に防止するため、航行中の船舶が必要とする情報を即座に判断し提供する必要があり、緊張を強いられる場面も多々ありますが、とてもやりがいがある仕事です。

航行管制等に関する知識・技能だけでなく、外国船舶との通信に必要な英語力を維持・向上させなければならないため、日々の自己研鑽が欠かせません。

運用管制官の仕事は、十分な専門知識と経験に基づく複雑かつ高度な判断が求められるため、国際標準に基づく資格を取得した職員が行います。

資格を取得した一人前の運用管制官には「き章」(下写真)が与えられます。

運用管制官からひとこと

運用管制官として適時適切な情報提供等を実施し、大阪湾における海難事故ゼロを目指して日々精進してまいります。

藤森良太



海上保安学校(管制課程)を卒業し、管制官となり今年で2年目、まだまだ学ぶことばかりですが、船舶交通の安全確保を担う管制官の業務に日々やりがいを感じながら、精一杯頑張っています。

大秦直樹



「とびの両翼」を配し、運用管制官の飛翔力を表しています。翼は日本神話において安全に目的地まで案内した鳥です。

円の中には航路標識の国際的なシンボルである「たいまつを掲げた人魚」を配し、周りで泳ぐ魚は運用管制官の支援によって安全な航海をする船舶を表しています。

中央の円は「レーダースコープ」を配し、航路を監視し、船舶へ情報提供を行う職員であることを表しています。

ごあいさつ

海上交通の安全を守るためタクトを振る

当センターは本年3月、淡路島北端から神戸空港を目の前に見るポートアイランド南西角に移転してきました。淡路島では1993年から30年間、明石海峡を航行する船舶を見守り続けてきました。これからはここ神戸の地において、明石海峡に加え神戸空港沖、関西空港沖を含む大阪湾北部海域全般を航行する船舶を見守り、そして導いていきます。

移転を機に「マリントクトKOBÉ」という素敵な愛称をつけていただきました。『たくさんさんの船を導く様

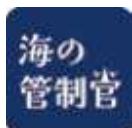
は、「海の指揮者」のよう。名曲は正しくタクトが振るわれてこそ生まれる。漁船、客船、貨物船。すべての安心と安全を預かる「偉大なマエストロ」として、「航路のハーモニー」を奏で続けることを願う。』との思いが込められたものです。

この思いを「海上交通の安全を守る」という熱い使命感を持つ「海の管制官」と呼ばれている運用管制官、情報官、技術官、管理系職員全員で実現させていきます。



大阪湾海上交通センター
(マリントクトKOBÉ)

所長 三ヶ田忠弘



read more...!

「海の管制官」ポータルサイト